

<p>学校教育目標</p> <p>生きる力の育成と地域を担う人間づくり</p> <p>①共に生きる力を養う(自己理解・他者理解を含め、他者と共存していく力を高める)</p> <p>②夢をかなえる力を鍛える(問題解決能力とともに、社会性及び人格を向上させる)</p> <p>③地域と関わる力を育む(地域への関心を高め、理解し、積極的に関わる力を育成する)</p>		<p>重点目標(中・長期的目標)</p> <p>①地域からの信頼を高め、地域を担う人材を育成する</p> <p>②人間としての在り方、生き方を深める教育を展開する</p>
<p>今年度の重点目標</p> <p>I 基本的な生活習慣の確立及び定着とともに、体験学習を通して自尊感情や規範意識を育成する</p> <p>II 計画的な進路指導を実践する</p> <p>III 地域に活動をアピールし、理解を得る</p> <p>IV いじめ・体罰のない、明るく安心な学校をつくる</p> <p>V 授業改革の取組を実践する</p>		
<p>総合評価</p> <p>生徒指導上の課題はまだあるが、生徒の自律を促しながら、予防する指導を粘り強く行い、多くの生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送ることができた。また、自尊感情の育成、キャリア形成につながる体験学習を計画的に実施することができた。授業改革の取組では、授業規律の確立・定着に併せて、生徒の探究的な学びにつながる授業内容や指導方法について、研修と実践を行った。ホームページの定期更新、石楠花通信の発行、茅野高フォーラムでの生徒発表や地域の方との意見交換会等、教育活動の情報発信、広報も工夫して取り組んだ。</p>	<p>成果と課題</p> <p>教育活動や生徒の活動状況を積極的に発信し、地域や中学校に一定の理解は得られているが、地域へ浸透させることが課題である。授業改革の取組では、全職員が生徒の探究的な学びにつながる授業改善の必要性は理解できているが、日常の授業で継続的に実践するには情報共有や研究が必要である。キャリア教育の一環となっている地域での体験学習等を通して、進路に対する意識をさらに高めることが課題である。</p>	<p>改善策と向上策</p> <p>生徒の探究的な学びにつながる授業改善に向けた研修・研究を、来年度も引き続き全職員で行う。また、生徒の問題解決能力や社会性を向上させる取組、キャリア教育の一層の充実に向けて、地域での体験学習の改善を検討していきたい。</p>

1 教育活動について

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策
教育課程	現教育課程の点検及び新しい教育課程の検討	・現教育課程の点検及び新たな教育課程編成の検討をすることができたか。	・現教育課程の点検から、生徒の実態も合わせた授業展開を検討した。新たな教育課程の検討も行った。	・学習成果と進路決定をあわせて検証し、より有効な教育課程を検討する必要がある。また、新学習指導要領を視野に入れた検討も始める必要がある。
学習指導	学習環境の確立ときめ細かな学習指導の実践	・授業向上週間を設定するなどして、基本的な学習習慣と学習環境の確立に向けて努力できたか。 ・授業及び学習環境のユニバーサルデザイン化に取り組むことができたか。 ・生徒の探究的な学びにつながる教員の授業力の向上を目的として、授業公開を実施できたか。	・長期休暇後や衣替えを利用し、年間に5回の授業向上週間を設けた。朝読書の時間に放送での呼びかけ、T・Tによる服装・授業態度の指導を行い、学習環境の確立に向け取り組めた。 ・授業改善の観点から、わかりやすい授業やユニバーサルデザインへの取組を各自の判断で行った。 ・春秋に1週間の公開授業を行うほか、初任研をメインとした授業研究を行った。教員相互の授業力の研鑽に役立てることができた。	・授業向上週間の時だけでなく、今後も継続的に取り組んでいくよう職員にも呼びかけを行う。学習環境の整備は、生活指導とも連携をとり今後も行っていきたいと考えている。 ・職員各自の取り組みであったため、なぜユニバーサルデザインが必要なのか、どうすればいいのかという共通認識の形成、全校的取り組みが不十分であった。あらためて研修会を実施していく。 ・来年度も教員同士の授業見学等、積極的に行っていきたい。公開授業の期間を設けることも必要だが、それにとらわれず相互に研鑽し合う環境作りも行っていきたい。
特別活動	生徒会活動の活性化	・生徒会役員に自治意識を涵養し、生徒自身がリーダーシップをとって全校を牽引していくよう指導することができたか。 ・生徒一人一人が、生徒会の構成員である自覚を持ち、委員会活動や行事などに積極的に参加する姿勢を身につけることができるよう指導できたか。	・毎週の役員会を生徒自身が運営し、自分達で物事を決めていくことを通して、主体的に活動に取り組めるようになった。しかし積極的な生徒とそうでない生徒との差が大きく、受け身の姿勢を変えることは難しかった。 ・掲示物や放送を使って、生徒会活動の連絡を徹底した。また、一斉委員会への参加状況を必ず記録し、不参加者への指導につなげた。しかしあまり改善はされず、不参加者が固定されてしまった。	・生徒会活動は生徒が中心となって活動するものであるという意識付けを常にし、自主的に取り組まなければならないということを実感させる必要がある。そのためにも自分たちで考え、決めて実行することを経験させる。それはリーダーとしての経験が少ない生徒達にとっては時間がかかることであり、教員もつい口をだしてしまいがちであるが、我慢をして見守ることが大切である。 ・一斉委員会は月に1回程度のペースで行っているもので、一般生徒の生徒会活動に関わる大切な機会である。そのことを意識させる必要がある。また、担任の教員に指導を任せがちになってしまっているため、役員が直接参加を促しに行くことも必要である。
生徒指導	社会性、協調性及び正しい判断力の育成と主体的な行動の促進	・社会のルール、マナー及び規律を遵守させることができたか。	・全職員で校門等での朝の挨拶運動、昼の立ち番や巡回を行った。 ・これの成果として、朝の遅刻者や昼休みの外出者は激減している。	・朝の遅刻に関しては、保護者の協力なくして改善は難しい。起床時刻や朝食、弁当の持参など、基本的な生活習慣向上を促すアプローチの継続が必要である。
	生徒・保護者・地域社会との信頼関係の構築	・家庭や地域と連携を図った指導をすることができたか。	・PTAの諸会合、学校評議員会、諸会議等で本校の生徒指導の基本的な考え方、近況や課題を伝え、理解と協力を求めた。事例発生時、各担任から迅速な家庭連絡が行われ、指導へ円滑に移すことができた。	・服装・ゴミのポイ捨て・自転車の乗車マナーなどについて、地域のみならず苦情をいただいているが、誠実に速やかに対応することに努めたが、改善は難しかった。もっと生徒会活動などを通じて生徒に呼びかけを行っていききたい。
	個のニーズに応じた手厚い指導	・関係機関等と連携し、個のニーズに応じた指導・支援ができたか。 ・特別支援教育に充実に向けた校内体制の構築や職員研修ができたか。	・支援の必要な生徒に対する特別支援教育支援員及びスクールカウンセラーによる面談については迅速な対応ができ、継続的なソーシャルスキルトレーニング(SST)も実施できた。行政機関やSSW、医療との情報交換もできた。新入生を対象とした学力スクリーニングテスト、全員面談も実施できた。	・新入生に関する情報交換を中学校とより密度高く行えるようにする。 ・課題を抱えた生徒の情報を一元的に管理し、必要ときに情報共有できるようにする。 ・新入生のスクリーニングテスト・面談の結果の有効活用を考える。 ・支援員、スクールカウンセラーと連携した体制は出来上がりつつあるので、職員会のなかで行えるミニ研修会を多く実施し、職員個々の

			<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の子午会・係会によるナーム支援の体制は整備されてきている。 ・特別支援教育の研修会を1回行った。 	スキルアップをおこなう。
進路指導	生徒の多様な進路希望への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な進路ガイダンス、小論文(作文)指導、面接指導、補習を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1人1人が多岐の進路選択から自分に合った道を選ぶよう、進学就職を織り交ぜたガイダンスや見学を計画し努めた。小論文・面接指導は、多くの職員が関わり生徒の特性を引き出しながら対応できたと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者の激減に伴い、補習や学力向上の指導が年々低下している。また、学校全体の基礎学力が低下し、学力の不足が実際の就職試験にもマイナスに働いている兆しがあるため、生徒の進路意識の向上と、基礎学力を補いながら進路実現に結びつくよう検討していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・就職に役立つ情報を提供し、事業所見学を奨励することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から、例年の企業見学に加え、6月の諏訪圏高校生企業説明会に就職希望者全員を参加させたことで、より企業を身近に感じ、担当者と話することで企業を選ぶ生徒が増加した。その後、会社見学に繋がり、良い就職結果が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との交流を増やすと同時に、卒業生や先輩から直接就職活動の様子や会社の様子など話を聞ける機会も増やし、生徒が積極的に質問を投げかけられる場を更に設けていく。求人票の見方の指導を徹底し、学校からの情報を生徒が理解できるように力をつける。また、保護者にも子供と会話をもち、子供の進路希望や、進路活動の様子を知ってもらふ必要性を強く感じる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進学先に関する情報を提供し、積極的に学校説明会・オープンキャンパス等に参加させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な業者による学校説明会、オープンキャンパスに参加させることが出来た。進路掲示、保護者懇談会など、保護者に対しても、情報を発信することが出来たと感じる。今年度は県外への進学者も多く、奨学金説明会も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象の学校説明会や、校内進路ガイダンスに参加いただく学校との情報提供を、最新の情報として生徒に発信、更新していくことが大切。 ・2学年の頃から、奨学金や特待生、指定校生の説明は理解を求め、計画的に進学に向けての準備が出来るようサポートする。
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習等を計画的かつ効果的に実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習をはじめ、施設体験、学校・職場見学、様々な進路に触れる機会から、工業メッセやマナー講習会、最終的に高校生企業説明会までスムーズに繋げてこられたと感じる。1月から、就職支援員による2学年の就職面談をしているので、この結果も来年度に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茅野高フォーラムで、各学年より、総合学習やキャリア教育を通して何を学び、いかに下の学年に学んで欲しいか伝える取組をした。実際に先輩から聞く体験談は教員の話よりも生徒に響いた様で、今後も生徒への発信の仕方を多様に考えて行く必要がある。また、コミュニケーション力、会話能力の低下については、今後も大きな課題として、ワークショップや面談を多く取り入れるなど機会を増やししながら指導する必要もある。

2 学校運営について

地域との連携	地域への広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや茅野高フォーラム等での情報発信や、中学校での説明会が実施できたか。 ・ホームページの定期的な更新ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りの実施に加え、学校説明会では新たに「熱鉄教室」を開催し、部活動体験の場を設けることができた。 ・ホームページをこまめに更新し、学校の様子や教育活動の紹介を積極的に行った。 ・「石楠花通信」を新たに発行し、地元茅野市の全地区に回覧してもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表等も積極的に行われてきているので、引き続き発表の場を増やし、本校や生徒の様子を地域や中学校に発信していきたい。また、教育活動の効果について理解してもらえよう、働きかけていきたい。 ・部活動の紹介や生徒の活動をこまめに更新することで、PR効果を高めたい。また、マイナーチェンジにより見やすいページ作りを行ったので、今後も継続していきたい。
	地域の人材、施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や、福祉保育コースなどの特色ある授業への協力要請・外部講師の依頼、また、部活動等への指導要請ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年共、地域の様々な組織の支援協力の下、体験型の学習に取り組むことができた。3年福祉保育コースでは、1年を通して毎週金曜日に、保育園や福祉施設、特別支援学校等における実習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での体験型学習は、生徒の規範意識を向上させる良い機会となっており、地域の方の支援協力には大変感謝している。これらの機会をより有効にするために、生徒自身がしっかりした目標と計画を持つよう事前指導を徹底する。また、地域の方とは綿密な打ち合わせを行い、学習に臨ませたい。
校内研修	校内初任研の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や学校視察等を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育研修、進路及び探求的な学習に関する研修、県内外の他校の研究授業への参加も積極的に行われた。本校での研究授業は、長峰中学との交流日に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探求的な学習を目指す授業研究と実践を来年度も継続していく必要がある。初任者を中心としながら全職員が積極的に関わって行かれるよう、計画する必要があると考える。